

熊本大学広報誌

熊大通信

vol. 72
2019 SPRING

巻頭特集 学長×学生インタビュー

若いうちに、一度日本を飛び出そう！
留学は、誰にでもある「チャンス」です

特集Ⅰ **持続可能な社会と共に。**
有用植物×創薬 UpRod

特集Ⅱ **困ったときは、お気軽に！**
熊大の学生支援





人は新しく生きるために、
 絶えず告別せねばならない。
 すべての古き親しき知己から、
 環境から、思想から、習慣から。
 — 萩原朔太郎(詩人)

熊大で生きる君たちへ

産業イノベーションラボラトリー
 (自然共生型産業イノベーションセンター)

大江キャンパスにある薬学部。その歴史は、1756(宝暦6)年に肥後藩主細川重賢が開いた「蕃滋園(ばんじえん)」に始まる。現在、薬学部の薬用植物園では、蕃滋園由来の植物を始めとするさまざまな薬用植物が栽培され、薬学の視点で、薬用・有用植物の解明と保存のための研究に役立てられている。これらの研究をより深め、産業化につなげるためのセンターとして2019年、大江キャンパスに「産業イノベーションラボラトリー」ができた。館内には薬草ミュージアムなどが設置され、薬用植物資源について広く学べる環境が整っている。言葉は、1907(明治40)年に第五高等学校に入学した詩人、萩原朔太郎の言葉(詩集『宿命』「AULD LANG SYNE !」についての散文詩自註より)。

CONTENTS

- 03 巻頭特集 若いうちに、一度日本を飛び出そう！
 学長×学生インタビュー 留学は、誰にでもある「チャンス」です
- 05 特集Ⅰ 持続可能な社会と共に。
 有用植物×創薬 UpRod
 見逃される発達障害をスクリーニング
 適切な教育で社会性を育む支援
 医学部保健学科
 大河内 彩子 教授
- 11 研究室探訪 困ったときは、お気軽に！熊大の学生支援
- 13 特集Ⅱ 留学で、世界が、人生が、広がった。
- 15 熊大生留学レポート
- 17 卒業生ジャーナル
- 19 KUMADAI TOPICS
- 22 熊本大学基金よりお知らせ

表紙 / 【原画】松永 拓己 / 大学院教育学研究科 准教授
 春の薬用植物園とアンスの花

熊本大学広報誌 熊大通信 vol.72

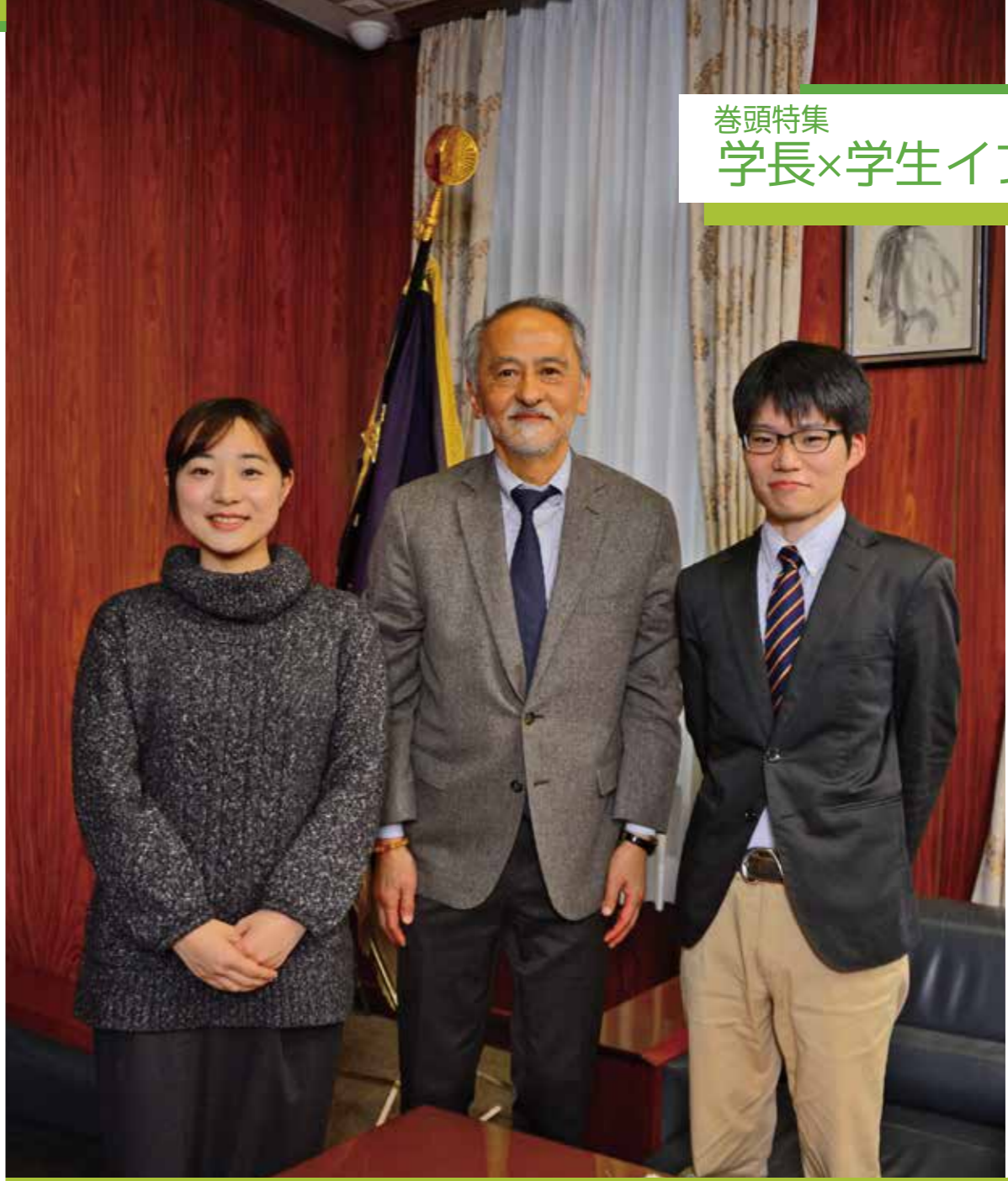
*皆さまのご意見・ご感想をお寄せください。

【発行】国立大学法人熊本大学
 〒860-8555 熊本市中央区黒髪 2-39-1
 Tel.096-342-3119 Fax.096-342-3110
 sos-koho@jimu.kumamoto-u.ac.jp

【編集】熊大通信編集委員会
 大日方信春／委員長 大学院人文社会科学研究所(法学系)
 茂木 俊伸／大学院人文社会科学研究所(文学系)
 松永 拓己／大学院教育学研究科
 河野憲一郎／大学院人文社会科学研究所(法学系)
 木村 弘信／大学院先端科学研究部(理学系)
 川島扶美子／大学院先端科学研究部(工学系)
 永田まなみ／大学院生命科学研究所(薬学系)
 首藤 剛／大学院生命科学研究所(薬学系)
 後藤 正三／総務部総務課広報戦略室

【制作】株式会社 談 ※本誌記載職名・学年等は取材時のものです。

若いうちに、一度日本を飛び出そう！
留学は、誰にでもある「チャンス」です



インターネットで情報はたやすく手に入るとしても、やっぱり、海の向こうに飛び出して、その国に身をおいて初めて知ること、わかることはたくさんあります。飛び立つための羽は、みんなが持っている！使うかどうかは、皆さんの「意欲」次第です。留学体験者である学生2人が、原田学長に留学のすばらしさについて話を聞きました。

(写真中央)
原田 信志(はらだ しんじ)学長
1975年から4年間アメリカに研究留学
(写真右)
大学院自然科学研究科
博士後期課程 理学専攻物理学講座 2年
熊添 博之(くまぞえ ひろゆき)さん
2016年4月から1年間南カリフォルニア大学に研究留学
(写真左)
文学部 文学科4年
瀬戸 めぐみ(せと めぐみ)さん
2016年9月から10カ月間上海の同济大学に交換留学

失敗もいい経験。
言葉の壁は必ず乗り越えられる

熊添 僕は南カリフォルニア大学に留学したんです。学長もアメリカに留学されていたと伺いました。

学長 医学部6年、研修医を2年、その後大学院を卒業したのですが、臨床に戻らずアメリカに留学しました。アメリカで一番困ったのは言葉。当時は英会話スクールなんてなかったから、留学が決まってからラジオで勉強しましたよ。

瀬戸 私は中国の上海に1年間留学をして、やっぱり、言葉では苦労しました。飲食店でうまく話せずに、店員さんに面倒くさがられて、悔しかったです。

学長 問題は、意外と日常生活の方。私は、借りたアパートでシャワーカーテンが必要になって。買いに行っただけで、「カーテン」という言葉が通じなくてね(笑)。

す。そのほかの学生も、瀬戸さんが利用したJASSOを含め、いろいろな留学支援制度に応募したり、授業料が免除になる協定校への留学など、利用できるものは利用してほしいと思います。

大切なのは意欲。行きたいと思う意欲をバネに、大学内外のいろんな制度を利用できるようにしっかり勉強して準備をしてほしいと思います。広い視野を持ちたいなら、留学をしたほうがいい。今後も支援をしていきますので、学生もできる限りの努力をして、チャンスをつかんでほしいと思います。

※熊添博之さんと瀬戸めぐみさんの留学生活については、15ページの「熊大生留学レポート」で詳しく紹介しています。



熊添 僕は、飲食店でオーダーする時、「パクチーなしで」と頼んだつもりでしたが、通じていませんでした(笑)。研究留学だったので、スカイプミーティングなどでは、何を言っているのか聞き取れず苦労したこともあります。最初は相手の言ったことを完璧に聞き取って、正しい英語で返事をしないと、いけないと思っていました。でも、会話の流れと内容が理解できて、それに対して自分の言いたいことが伝わるなら、100%正しい英語でなくてもいいと思えるようになりました。

私たちを彼の家に1カ月住まわせてくれたんです。彼の元には世界各国から研究者が集まっていたから、毎晩パーティ。その時に、アメリカの生活スタイルやものの考え方を知ったし、ヨーロッパからの研究者もいたから、彼らの国のことも知ることができました。



意欲があるのなら、日本を飛び出して

世界の広さを知ろう！

瀬戸 私たち学生が留学すべきと思われる理由はなんですか。

学長 私が留学して良かったと思う最大の理由は、海外でつながった人脈です。アメリカでの私のボスはとてもいい人でね。私は妻子を連れて留学していましたが、

熊添 僕はルームシェアをしていて、一緒に暮らす学生にムスリムの人がいきました。彼らには断食があつて、断食明けのパーティに誘ってくれました。

学長 外国の文化を学ぶと同時に、外国にいるからこそ日本の文化も見えてくる。それも、留学してよかったと思うことの一つです。

瀬戸 日本好きの友人が日本のことを聞いてきたけど、答えられない

熊添 ただ、留学には費用の問題もあると思うんです。僕は、インターンシップで留学したので、こちらの大学からお金が出ましたが。

瀬戸 私は日本学生支援機構(JASSO)の海外留学支援制度を利用して、補助を頂きました。

学長 熊本大学の支援としては、海外短期留学が推奨されているグローバルリーダーコースの学生には大学から奨学金を支給していま



目指すのは、世界の幸せ。

文部科学省「地域イノベーション・エコシステム形成プログラム(通称 地域エコ事業)」に採択された「有用植物×創薬システムインテグレーション拠点推進事業(UpRod)」が開始しています。

このプログラムは、植物や海洋生物、微生物などの天然資源から、革新的な医薬品や健康社会づくりに役立つ産物を生み出そうというもの。アフリカ、アジア諸国など主に新興国の天然資源の有益性に科学的エビデンスを与え、栽培方法や成分抽出技術を確立、創薬にもつなげようという壮大な計画です。熊本県内の企業はもとより、世界の研究機関と連携し、「有用植物×創薬」によって世界の幸せに貢献することを目指しています。

創薬までを見据え企業設立も含めたこの事業は、大学の研究成果を地域(必ずしも「地元」ということではなく、熊本を含めた世界各地)に還元しつつ、大学自体も自立・自走する、「次世代型国立大学」へのチャレンジでもあります。

熊本大学が、世界や企業と手を携えて達成するSDGs(持続可能な開発目標)への道のり。その一つの答えが、「UpRod」です。

UpRod について

「Useful and Unique Natural Products for Drug Discovery and Development」の略。

ロゴマークについて

緑の円形は天然物が豊かに存在する地球を、その中にあるヴィジュアルは薬用資源(創薬に繋がる有用植物などの天然物)を表す。緑の矢印は、薬用資源から有効成分を釣り上げる「Rod」(釣り針)と、世界へ広がるネットワークを意味し、白い矢印と交差することで、連携先の国々との対等なコミュニケーションをイメージした。さらに、マークを包む二つの円弧で、薬用資源の保全を表している。

特集I 持続可能な社会と共に。

有用植物 × 創薬



有用植物×創薬システムインテグレーション拠点推進事業(UpRod)はプロジェクトとして、実施体制手法として、今後、大学でのさまざまなプロジェクト運営のモデルとなることも目指しています。目指すところや、その特徴などを、副事業プロデューサーの甲斐広文薬学部長、事業プロデューサーの菊池正彦客員教授に伺いました。

UpRod が創り出す持続可能な社会と大学



企業の考え方の導入が
価値ある研究を持続させる仕組みにつながる

事業プロデューサー
菊池 正彦 客員教授

熊本大学薬学部出身。大学院博士課程修了後、第一製薬(株)(現、第一三共(株))に入社。製剤研究センター、研究開発戦略部、経営戦略部、ワクチン統括部長を歴任、北里第一三共ワクチン(株)取締役、ジャパンワクチン(株)取締役を兼務するとともに、一般社団法人ワクチン産業協会の理事長として業界をリードした。退職後2017年12月より熊本大学客員教授 兼 薬学部先端薬学教授に就任、UpRodの事業プロデューサーとして、アカデミアに最新のコミュニケーションノウハウとビジネス要素を取り入れる重要な役割を担っている。



薬草の有用性を証明し、
世界に持続可能な幸せをもたらしたい

副事業プロデューサー
甲斐 広文 薬学部長

熊本大学薬学部出身。大学卒業後、エーサイ(株)の研究者を経て、再び大学にて、難病治療に関わる薬理学研究に取り組んでいる。現在、薬学部長として、薬学教育・研究の推進に携わる一方、国内外の企業や教育・研究機関との連携強化に向け、世界中を飛び回る UpRod 事業の副事業プロデューサーである。

大学にプロジェクトマネジメント方式を導入 企業の考え方で 自立・自走を目指す

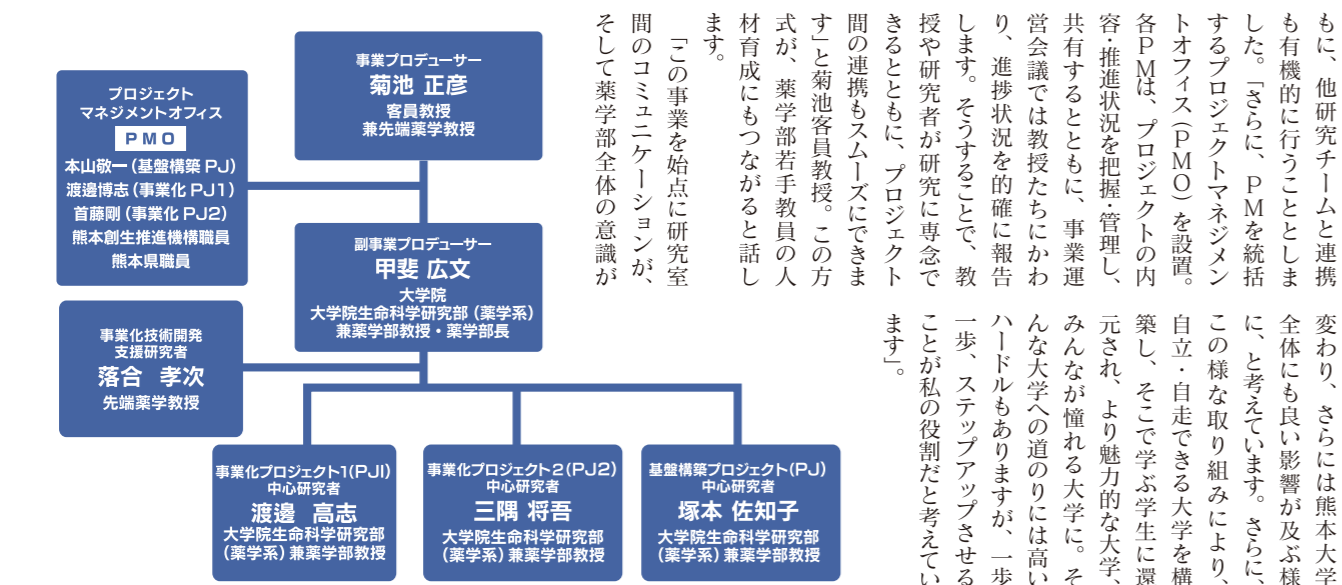
もう一つ、この事業の大きな特色が、大手製薬会社で医薬品研究・開発に長い経験を持ち実用化を実践してきた菊池正彦客員教授が「事業プロデューサー」を務めていること。先進的なコミュニケーションノウハウ・ナレッジを持ち、大学に染まっていない菊池客員教授が事業プロデューサーとして着任したことも、本事業が文科省に高く評価されている大きな理由の一つです。

事業に導入したが、日本では一般企業でも未だ先進的な「プロジェクトマネジメントシステム」。システム導入に際して、薬学部の研究室を率いる各教授らと、あえて大学の外の環境に連れ出し、ひざづめで徹底的に議論させたうえで、皆が納得できるMission/Visionを創り上げました。システム導入では、本事業の中心を担う、渡邊教授、塚本教授、三隅教授ら3人が率いる各研究チームに「プロジェクトマネージャー(PM)」を任命・設置し、研究動向の把握・スケジュール管理を行うこと

プロジェクトの根底に流れる「三方よし」の精神

有用植物×創薬システムインテグレーション拠点推進事業(UpRod)。主に新興国を対象に、各国が持つ天然資源のライブラリーを構築し、そこから見出された有用植物の栽培方法や成分抽出技術を確立、創薬につなげる壮大なプロジェクトです。「世界の人口のうち、先進的な薬を使えるのは約2割。あとの8割は、地域や家族に伝わる薬草を使った伝統医療に頼っています」と話すのは、薬学部の甲斐広文薬学部長です。「伝承医療を分析・評価して科学的エビデンスを与え、その地域の人々が自信を持って使えるようにする。有効な植物は、熊本大学で栽培方法を研究、開発し、現地でその植物を栽培する体制を確立します」。

そして、その植物から成分を抽出する技術や成分そのものを商品化するベンチャー企業で、持続的な事業実施を支えます。もちろん、有用植物から生まれた新薬や健康食品などの恩恵は、世界中の人々が受けることができます。「そこから生まれた利益を新興国に還元できれば、新興国も発展できます」と甲斐



UpRod 事業 PM
しゅうつよし
首藤 剛 准教授 (左)
もとやま けいいち
本山 敬一 准教授 (右)

「この事業を始点に研究室間のコミュニケーションが、そして薬学部全体の意識が

PMOの役割によって 私たち自身も成長

本事業におけるプロジェクトマネージャー(PMO)の特長は、「便利屋」であること。PMO所属のスタッフが、一人一つの研究室を担当し、研究室に「番記者」のように張り付いて研究の進捗状況を把握。かつ、プロデューサーの意向も見抜いて、プロデューサーと研究室、研究室と研究室という、上下と横の連携と調整もすべて行っています。分野が多岐に渡る薬学部をまとめ上げるのは簡単ではありませんが、PMOがそれを可能にしています。どちらかというと縦割りの大学で、所属する研究室や組織の中だけで完結しがちなところを、「その研究結果をこっぴつにつなげてみませんか」と提案し、そのお手伝いをするのがPMOの役割。この体制によって、PMOのスタッフである私たちが自身も成長できています。大学でもこん

UpRodで取り組まれているプロジェクトは主に3つ。
いずれも、世界を牽引する研究者がいる熊本大学だからこそできる研究です。



世界中の天然物をターゲットに
人類に役立つ薬を探索

つかもと さちこ
塚本 佐知子 教授
大学院生命科学研究部 (薬学系)

北海道大学、金沢大学、千葉大学などを経て、2009年熊本大学へ。海洋生物を中心に天然生物がもつ薬用成分を研究している。本事業では、基盤構築プロジェクト「海洋生物資源由来化合物ライブラリー構築」の中心研究者を務める。



熊本大学が 持つ評価系を駆使し
有用植物で世界を救う

みすおか しょうご
三隅 将吾 教授
大学院生命科学研究部 (薬学系)

熊本大学薬学部出身。衛生化学、生化学、AIDSに関する研究に取り組む。本事業では、事業化プロジェクト「有用植物評価システムラインの構築」の中心研究者を務める。



世界の有用植物を
産業につなげられる場に

わたなべ たかし
渡邊 高志 教授
薬学部附属薬用資源エコフロンティアセンター

帝京大学薬学部卒業。農林水産省、高知工科大学を経て2015年熊本大学へ。アジア・アフリカなど多くの国で薬用植物の探索と収集、企業連携による産業化をすすめている。本事業では事業化プロジェクト「環境再現型栽培システムの構築」の中心研究者を務める。

**天然資源から
新しい薬を
発見する感動**
あらゆる天然資源から、有用物質を探し出す研究を行っているのが、塚本佐知子教授です。海綿などの海洋生物のほか、土や植物から微生物を単離して研究しています。「単離方法を工夫すると、これまであまり見たことのないようなカビが生えてきますので、その中には実際に薬になるものもあると考えています」。評価系も塚本研究室内で行われており、「評価系でふるいにかけ、実際に薬になるのではないかとエキスの成分を分離。単品にして化学構造を決定します。ヒトの

薬にはならなくても、動物の薬に使える成分や農薬に使えるもの、研究の際の試薬になるようなものが見つかる可能性も。それはそれで、人類の健康や福祉の役に立つものです」。ダイビングライセンスも有し、「マリンハンター」とも呼ばれる塚本教授。「地球の70%を占めるのが海。それも、北極や南極、赤道、浅瀬や深海と、環境によって違う生物が生息し、有用資源の探索源としては高い可能性を持っています」。さらに、干潟も研究対象の一つ。「日本最大の干潟を持つ有明海に近いことは、熊本大学のメリットの一つと言えますね。そのほか、「植物ハンター」であ



有用資源の探索のため海に潜る塚本教授

る渡邊教授が有するライブラリーの植物から、エイズの治療薬になりそうな成分を三隅教授と協力して研究するなど、本事業においては密な連携体制を構築しています。「世界の天然資源を利用した薬づくり」というゴールはありますが、「生き物の仕組みを理解すること自体が魅力的なこと。誰も知らなかったことに気づく瞬間を、学生たちにも味わってほしいと思います」。

**1対数千万人が、
薬学の醍醐味**
本事業における三隅将吾教授の担当は、熊本大学薬学部が持つユニークな評価系を使い、さまざまな天然物シーズのエビデンスを得ることです。「今までの壁を、ぶち抜くような新発見を目指して、

研究に携わり、もともと熊本大学内に強い連携が構築されていたこと、またアミロイドシス研究については、その権威である熊本大学医学部の安東由喜雄教授の存在も後押ししています。「熊本大学のオリジナリティが高い評価系そのも



エイズ治療薬探索の実験に取り組む三隅教授

ので世界に打って出るといふ戦略も持っています」と三隅教授は期待を込めます。「薬学の醍醐味は、1つの薬が数千万人を救う可能性があるということ。新しいものが見つかる時は、シビれます。学生も地球規模で考えるミッションにかかわって、自分も世界を救う、そへ

**世界の国々と手を結び
有用植物の
ライブラリーを構築**
世界中を駆けめぐり、約3万種にもぼる有用植物を採取。ライブラリーとして蓄積している渡邊高志教授。本事業では、有用植物の生息地からの情報提供を受け生息環境のデータを取付、栽培し大量生産できる技術の構築を目指しています。これまで、ネパール、ミャンマー、スーダン、トルコの研究機関などと協定を結んでいます。地道に広げてきた交流がさらに深まり、さらに、別の国々での連携もできると考えています。本事業では、難治性疾患の創薬素材や身近な健康素材

の探索と評価を行い、有用植物の活用によつて相手国にも有益な技術の確立が重要だと渡邊教授。「本事業においても、現地で栽培したものや世界に展開し、恵があるような三方良しの体制を構築していきたいと考えています」。そこで欠かせないのが、人材の育成です。「画期的な有用植物を見つけて出すのは本当に難しいです。有用植物の探索において、現地足を運びながら経験を積み、資源のにおいを感じることもできるフィールドワーカーは重要です」。難しいながらも、本事業に取り組み熊本大学薬学部で学び、自分も



有用植物の調査に取り組む渡邊教授

本気で創薬をやる、そう考える学生が出てくればうれしいと話します。「薬学部で薬剤師の免許をとるだけでいいのか。それで自分が幸せなのかを考えて、自分が本当にやりたいことに取り組むべきです」。自分の夢に対して投資をするような自分を、大学時代につくってほしいと話してくれました。

lab's data

【大学院生命科学研究所
(保健学系)
公衆衛生看護学分野】



- 卒論テーマ
 - ・認知機能低下のある高齢者が社会参加することで得られるプラスの影響—精神的・認知的・社会的な観点から—
 - ・地域住民におけるソーシャルキャピタルと身体活動との関連
 - ・退院後在宅で生活する患者に対する病棟看護師による退院支援の課題と解決策など

- メンバー
 - 教授 1 人、助教 1 人、保健師教育課程選択学部学生(3年生 20人、4年生 20人)

Interview



医学部保健学科看護学専攻 地域看護学分野 4年
いわた みさき
岩本 美咲さん(左)

地域看護学分野には、看護師とともに保健師の資格を取る学生が在籍しています。私はまず看護師として就職することが決まっています。それは、入院している方や病気がある方の気持ちを理解できるようキャリアを積んでから、地域の人と接する保健師になりたいと思うから。保健師は、地域に暮らす人すべてを対象とする仕事で地域全体に寄与できるので、より人の役に立てると考えています。大河内教授の研究では、発達障害も今はきちんと認識されており、子どもさんも両親も自分を責めずに済む、それがより暮らしやすい社会をつくると学びました。

医学部保健学科看護学専攻 地域看護学分野 4年
いし の れ い な
石本 怜奈さん(右)

私は4月から保健師として働くことが決まっています。看護師として病気を治す立場になる勉強もしましたが、人の健康のためにほかにはできることがあるかも、と考えたことがきっかけ。特に、2016年の熊本地震で、感染症やエコノミークラス症候群予防のために活動する保健師さんの姿が印象的でした。私がこれまで健康に過ごしているのも、予防の観点から活動する保健師さんがいたからと知った時に保健師についての授業があったので、この職業に引き込まれました。看護学分野は実習も多く大変でしたが、悩んでも、知識と技術が繋がった時に道が開ける楽しさを感じました。

新しいスクリーニング手法を現場とともに開発

大河内彩子教授の研究の一つは、行動面や社会性に課題のある子どもと保護者への支援です。「発達障害にも程度の差があり、発達障害があるのに乳幼児健診で何も指摘されない場合も多いんです。お母さんが何か感じていても周囲に相談しづらく、一人で悩みを抱えてしまう。また、保育園や幼稚園では大丈夫でも、小学校に上がると、周りについていけなかつたり、周囲から浮いてしまうことでお子さんが自信を失い、メンタルヘルス面に二次障害が出る。それが不登校につながってしまいます。」

健診で見逃される発達障害を抽出し、適切な支援に結びつけるために目指しているのが、新しいスクリーニング手法の確立。小さな可能性も見逃さないよう、開発にあたっては、科学的な定量評価のほか、市町村の保健師や保育士、幼児の歯科治療における対応スキルを持つ小児歯科医などにヒアリングし、「現場の経験値」

「地域づくりの影のプロデューサー」保健師輩出も使命

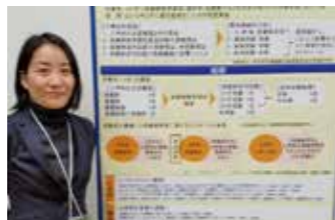
発達障害と診断された子どもやその保護者を対象にした教育支援も研究しています。「発達障害のお子さんは、優れた能力も持っています。その能力を伸ばし社会性を育む支援が不可欠です」。そこで取り組んでいるのが、「トリプルP」(※)という教育支援プログラム。「ほめることで自信のある子どもを育て、社会で生きていけるようにすることがテーマ。ただ「すごいね」とほめるのではなく、何をどうできたからえらいのか、具体的にほめることがよい影響を与えます」。子育て中のすべての人が対象ですが、発達障害の子どもの効果が見られるプログラムとのこと。子どもの写真が添えられたカードを見て「これは、お母さ

んからのお礼状です。悩んでいたお母さんが、支援を通して『もう一人、子どもを産みたいと思うようになりました』と言ってくれる。そんな時、喜びを感じます」。

乳幼児健診や子育て支援に、現場で大きくかわる存在が「保健師」。大河内研究室のもう一つの使命が「優秀な保健師の輩出です」。「保健師は公務員試験に合格しなければならず、難関です。平成30年度は11名が合格。全国的に見てもすごい数字です。それだけ熊大生が優秀だということなんです」。新生児から高齢者までの地域住民とかかわる保健師を、「地域を健康にしてすべての人を幸せにする、地域づくりの影のプロデューサー」だと大河内教授。自身も保健師で、その苦労も喜びも知る大河内教授のもとで学んだ学生たちが、これからの地域づくりの一翼を担います。

※トリプルP
Positive Parenting Programの略。オーストラリアで開発された、保護者向けの子育て支援プログラム。世界25カ国で実施されており、日本では「前向き子育てプログラム」と呼ばれている。

密着！大河内研究室



松本千晴助教による保健師教育についての発表(山口県宇部市で行われた第7回日本公衆衛生看護学会学術集会)



保健師就職試験対策や保健師実習について、先輩に質問できる交流会を行っています

研究室探訪

Laboratory Report



見逃される発達障害をスクリーニング
適切な教育で社会性を育む支援

特集II

困ったときは、お気軽に！

熊大の 学生支援

講義の履修や体調不良、気持ちが落ち着かないなど、大学生活にはさまざまな悩みがつきものです。そんな悩みに応えてくれる場所が大学にあることをご存知ですか？
小さな悩みも気軽に相談できる支援をご紹介します。

講義のこと



カラダのこと

生活トラブル

困ったときはまずココへ！
学生生活の駆け込み寺

学生相談室

「教室がどこかわからない！」「なにを履修したらいいかわからない」といった大学生活の悩みから、「最近元気がでない」「人間関係がうまくいかない」「どこに相談したらいいのかな」というお困りことなど、どんな悩みも受け入れてくれるのが学生相談室です。専門家のアドバイスが必要な場合は、学内外のさまざまな部署も紹介してくれます！

新入生にとっては、今までと大きく環境が変わる大学生活。暮らしのこと、学びのこと、対人関係など、小さなことでも気軽にご相談ください。一緒に解決方法を考えていきましょう！

連絡先

場 所 黒髪北地区 全学教育棟 1階 在学生・教職員専用
正面玄関すぐ左
開室時間 8時30分～18時15分
(長期休業中は17時15分まで)
電 話 096-342-2127・2128
メー ル gag-soudan@jimu.kumamoto-u.ac.jp



三者が
連携して
支援します

合理的配慮

障がい
サポート

配慮や支援が必要な学生の
公平に学べる環境をコーディネート！

学生支援室

障がいがあり、修学の方法に困った時に相談出来るのが学生支援室です。平等で公平な教育を受ける機会が得られるよう、修学の方法を考えたり、支援機器を利用したりして、支援やコーディネートをしてもらえます。障がいの有無にかかわらず、個人のニーズに合わせて対応してくれますよ！

臨床心理士やキャンパスソーシャルワーカーが学内外の関係部署と連携しながら、学生のみなさんが安心して学べる環境を作ります！



連絡先

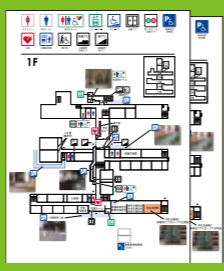
場 所 黒髪北地区 全学教育棟 1階
正面玄関を右に曲がって一番奥
開室時間 8時30分～17時15分
電 話 096-342-2756・2766
ホームページのメールフォームからも申し込み可能です



障がいのある学生をサポートするサークルもありますよ！

学生の学びを学生が支援！熊大学生サポートサークル

学生支援室では、障がいのある学生を始めとする、さまざまな学生の大学生活、学びを支援するボランティアサークル「熊大学生サポートサークル」の活動を支援しています。サークルの活動は、主に3つ。支援が必要な学生に、パソコンや手書きで授業内容を文字通訳する「ノートイク」。楽しく手話を学ぶ「手話学習」。車椅子やアイマスクを使用して学内を調査し、環境が整っている場所やそうでない場所を記載したマップを作る「バリアフリーマップ作成」です。2019年の入学式でも要約筆記（文字通訳）を実施！興味がある方、活動をやってみたいと思った方は、ぜひ、学生支援室に来てください！



2018年度入学式の要約筆記の様子

熊本大学 バリアフリーマップ

心の不調

体と心に不安を感じたら
専門家に相談できます

保健センター

カラダの不調



病気になってもどこの病院にいったらいいかわからない。そんなときに助けてくれるのが保健センターです。保健センターには、医師や看護師が常駐しており、いつでも健康相談にのってもらえます。体調が悪ければ、お薬も処方してもらえますので、安心できますよ！体や心の調子がおかしいと思ったら、すぐに、保健センターにいきましょう！

保険証はいりません。無料です。心と体の悩みについては、予約すると専門家にしっかりと話を聞いてもらえますよ。

連絡先

場 所 黒髪北地区 図書館斜め前
開室時間 8時30分～17時15分
電 話 096-342-2164
メー ル hoken@jimu.kumamoto-u.ac.jp



本荘・大江キャンパスには保健センターの分室があります！

本荘キャンパスと大江キャンパスには、保健センターの分室として「健康相談室」を設置し、看護師による健康相談、臨床心理士によるこころの健康相談を行っています。利用できる曜日、時間が決まっていたり、予約が必要な場合もありますので、事前に確認の上、ご利用ください。

医学部医学科： 医学教育図書棟4階第4講義室横
医学部保健学科： A棟1階事務室横
薬学部： (健康相談) 育業フロンティアセンター
(こころの健康相談) A等1階ミーティングルーム
※開設日時については保健センターのホームページでご確認ください。
また、こころの健康相談は予約が必要です。



文学部 文学科4年 瀬戸 めぐみさん

同済大学(中国・上海)
大学間学生交流協定校へ交換留学

留学期間：2016年9月～2017年7月

留学費用：日本学生支援機構(JASSO)の海外留学支援制度利用 ※交換留学のため授業料は全額免除

2019年4月から：グローバルに展開する企業に就職。いずれ海外勤務のチャンスがあれば、留学経験を活かしたい

帰国後は、文学部国際奨学事業を利用して、北京で卒業論文のための現地調査を実施

なぜ中国語を学ぼうと?

大学で第二外国語に選んだ中国語。文法も発音も日本語とまったく違う中国語の難しさが、逆に魅力に感じました。留学前に友だちに会いに訪れた旅行先が上海で、その時、何もかも刺激的に感じたことが留学先に選んだ理由です。

留學生活はいかがでしたか?

最初は言葉の壁が厚く、友だちもいなくて。でも、レベルが細かく分けられたクラスで学べたのがよかったです。空き時間は、図書館にこもって勉強。小テストで毎回満点を取る目標を達成しているうちに言葉も使えるようになってきて、友だちもできました。また、大学の休みにはいろいろなところを旅行。都会なのに自然もあり、日本との歴史も含め、たくさんのことを学び体験できた1年でした。

苦労したことは?

留学前のビザ手続きから、現地での銀行口座開設、携帯電話の手続きなど、あれが終わったならこれ、みたいに、最初は大変でした。

後輩へメッセージを!

行きたいと思うなら、経験者に話を聞いてみるのが一番。国際教育課や留学説明会なども利用するといいですよ!



留学先のクラスメイトと

各国の留学生が出し物をするグローバルビル。真ん中の女性はキルギスからの留学生です

大学での写真。インスタ映えスポットです!

熊大内で気軽に世界に触れる! グローバル教育カレッジ イングリッシュ・トークモン

学生を対象に、グローバル教育カレッジで毎日、お昼と夕方(16:10～)に行われているのが「english-TALKmon(イングリッシュ・トークモン)」。グローバル教育カレッジの先生と英語でフリートークを楽しむ時間です。初心者コースやフリートークコースなどが設定されており、先生や時間帯によって、会話のテーマはさまざま。生きた英語を学びながら、国や学部を超えた仲間づくりもできます。その他、海外留学に必要な英語運用能力試験「IELTS」の課外講座や、留学生と交流できるイベントを開催。

詳しくは、グローバル教育カレッジ棟の窓口まで!



熊大生留学レポート

留学で、世界が、人生が、広がった!

学長インタビューで、インタビュアーを務めた二人は、いずれも留学経験者。研究や語学など、目的は異なっても「貴重な経験をした!」という思いは同じです。学長インタビューでは聞けなかった、お二人の留学体験を聞きました!

交換留学や、短期海外研修など、留学に興味を持ったら…

熊本大学 国際交流



大学院自然科学研究科 博士後期課程 理学専攻物理学講座2年
熊添 博之さん

南カリフォルニア大学
CACRS研究所

留学期間：2016年4月～2017年3月

留学費用：留学先大学からのインターンシップ報酬

2019年4月から：博士後期課程を早期修了し、研究職へ

留学先は、所属する研究室の共同研究先で、長期留学前にも2～3週間の短期訪問を数回実施していた。研究内容は、「光触媒材料の電子状態・光励起ダイナミクスに関する研究」

なぜ留学を?

所属する研究室では、ドクター(博士課程後期)に進むと、武者修行的に1年間の留学を勧められます。私は、マスター(博士前期課程)から続く同じ研究生生活に変化を求めて留学を決意。学会や論文では英語が当たり前なので、生の英語に触れる機会もあったほうが良いと考えたことも理由です。

留學生活はいかがでしたか?

研究環境については、やはりアメリカのほうがホット。最新の話題がよく飛び交い、新しい情報を早く得るという点ではすごく刺激的な毎日でした。自分のものの考え方が多面的になったと思います。個人的には、海外へ行く、ということに身構えなくなりました。また機会があれば海外での研究もしたいと思うようになりました。海外へ行く、海外で働くということに、留学を通して気負いがなくなったことが良かったと思います。

苦労したことは?

留学がギリギリに決まり、住むところを現地の学生に慌てて頼み、福岡でのビザ申請には時間がかかるため、ビザの取得に大阪まで行ったこと。

後輩へメッセージを!

機会があるなら、行ったほうが良い。留学に身構える必要はないと思います。

有名なビバリーヒルズ付近にも行ってみました

研究室のそばにあったニール・アームストロング氏の銅像。彼は南カリフォルニア大学で宇宙工学の修士号を取得しました

大学で授業をさせてもらう機会をもらいました



文学部 | 「人を笑わせる」漫才の道へ 司会業の傍ら芸を磨いています！



渡辺 賢
Masaru WATANABE

芸人

文学部人間科学科
平成18年度卒

昭和58年生まれ。新潟県新潟市出身。4歳のときに熊本に来る。熊本県立熊本西高等学校出身。日本一のお笑い司会者を目指しています！ぜひご用命を！相方も募集中！

熊大のココがイイ！

図書館！哲学関係の本を読みふけていました。

高校生の頃からバンド活動 演奏旅行をして暮らしてみたい

高校生のころはバンドを組んでいて、ミュージシャンになるのが夢でした。将来は、演奏旅行をして暮らしていきたいと思っていたほどです。熊本大学に進み、在学中にデビューして、現役熊大生バンドマンとして活躍したいという野望を持っていました。

大学時代は哲学にのめり込み 「言葉とは何か」を考え続けた

大学時代は哲学にのめり込んでおり、「言葉とは何か」などをずっと考えていました。先生方の講義や本で学び、自らの考えを深めるといった刺激的な日々でした。特にウイトゲンシュタインに憧れ、彼になりたいと考える時期もあったほど。研究室の先生や先輩や後輩と哲学的議論をするのが大好きで、同時に、くだらない話をするのも大好きでした。

軽い気持ちで出場した漫才大会で もらった「笑い声」が忘れられず

現在はフリーで司会業などを行っています。大学在学中に、友だちと軽い気持ちで出場した漫才の大会でお客様の笑い声をもらい、「この道へ行きたい！」と決め、上京。お笑いの学校へ行きコンビを組みましたが、今はひとり活動しています。お笑い司会者として音楽イベントの司会などを行っています。

医学部 | 健康を通じた地域づくりを担う 保健師の仕事に誇り



和田 幸
Miyuki WADA

熊本県南広域本部
球磨地域振興局
保健福祉環境部(人吉保健所)
保健予防課

医学部保健学科看護学専攻
平成29年度卒

平成7年生まれ。熊本県大津町出身。熊本県立大津高等学校から熊本大学へ。趣味は、ダンスとバドミントン。マイブームは、語学学習。

熊大のココがイイ！

学部・学科を超えて、多くの人と交流ができる！

保健師の母を見て、 高校生時代から憧れていた

高校1年生の時から医療関係の職業に就きたいと考えていました。母が保健師として働いていたこともあり、保健師を自然と目指すようになりました。地域住民から信頼され、健康づくりを通して良いまちづくりを行っていく保健師という仕事に憧れを持ち、勉強を続けていました。

医学部アンサンブルで活動 病院の演奏会での笑顔が思い出

勉強だけでなく、大学生活で多くの人と交流したいと考えていたため、1年生から3年生まで医学部アンサンブル部で活動しました。病院などで依頼演奏を行い、患者さんや家族が笑顔で楽しんでいる姿を今でも覚えています。

主に、指定難病の患者さんを担当 より良い生活のために一緒に考える

現在は人吉保健所で、地域住民の健康づくりに取り組んでいます。その中で、難病の方の支援を主に担当。指定難病医療費助成制度の案内や療養生活における悩みなどの相談を受けています。実際にご自宅を訪問して、よりよい生活を送るために患者さんと一緒に考えながら支援を行うことがモットー。また、患者さん同士の交流会の運営や難病支援者が集まって話し合う協議会の開催も行っています。

理学部 | ラボ実験から顧客対応まで 研究開発業務で国内外を飛び回る



赤崎 智彬
Chiaki AKAZAKI

三井化学株式会社
研究開発本部
機能材料研究所(千葉県)

理学部 理学科 化学コース
平成26年度卒
大学院自然科学研究科
博士前期課程
理学専攻 化学講座
平成28年度修了

平成3年生まれ。宮崎県小林市出身。宮崎県日向学院中学校・高等学校卒業。熊本大学・大学院を経て、総合化学メーカーである三井化学に入社。毎日の楽しみは帰宅後に2匹の愛犬と遊ぶこと。

熊大のココがイイ！

緑が溢れる穏やかなキャンパス。のびのびとした学生生活を送ることができました。

高校時代に会った有機化学に魅了 理学部へ進学を決意

幼い頃から飛行機が好きで、パイロットに憧れていました。化学の道に進むとは夢にも思っていませんでしたが、高校3年生の時に化学の授業で初めて有機化学に出会い、パズルのように分子同士が繋がったり、驚くように性質が変化することにおもしろさを感じ、思い切って理学部へ進学を決めました。

研究室配属後は、学会発表や 研究留学の機会も

学部3年生までは講義そっこのけでバンド活動、アルバイト、旅行漬けの毎日で、これでもかというほど自由な時間を謳歌しました。研究室配属後は有機化学の奥深さに改めて魅了され、同期と毎晩遅くまで実験に没頭する毎日でした。国内外での学会発表や、アメリカの研究室へ留学する機会も頂き、刺激的で濃密な研究室生活を送ることができました。

さまざまな分野の機能性材料開発 ものづくりの醍醐味を感じる毎日

入社後、機能性材料を扱う研究所へ配属となり、主に医療分野やエレクトロニクス分野、農業分野で使用される繊維素材の研究開発を担当しています。研究開発業務といっても、ラボ実験だけでなく、製造拠点での中試験や量産テスト、顧客対応など多岐に渡り、日々国内外を飛び回りながら、ものづくりのおもしろさと難しさ、やりがいを感じています。

法学部 | 熊本大学大学院法曹養成研究科で 猛勉強。新米弁護士として勉強の日々



古閑 哲哉
Tetsuya KOGA

北里綜合法律事務所
(熊本県)

法学部法学科
平成24年度卒

平成2年生まれ。福岡県みやこ町出身。地元の福岡県立育徳館高等学校(旧豊津高等学校)を卒業後、熊本大学へ。高校生まで習字に通いました。小学生の時には体操教室に通っており、今でも体が柔らかいです。

熊大のココがイイ！

街から近すぎず離れすぎず、程よい距離で落ち着いた環境で勉強ができます。また、魅力的な先生が多いと思います。

宇宙好きで物理学者が夢 でも、数学が苦手な断念

宇宙が好きだったので、将来の夢は物理学者でした。ところが、高校生になって絶望的に数学ができず、その夢は断念。そんな時当時の担任の先生が「一番好きなことを仕事にするのは辛いから、一番好きなものは趣味にして、二番目に好きなことを仕事にした方がいい」と言ってくれたことが記憶に残り、法学部に進学しました。

他学部や年上、年下ともつながる 大学時代のサークルはお勧め

今思い返せば、部活を中心とした大学生活でした。講義はきちんと出ていましたが、それ以外で勉強はあまりしていなかったと思います。部活は少林寺拳法部に所属。週に5日間練習をしていました。部活やサークルに入るのは、別の学部の友人や年上・年下の人ともつながることができるのでお勧めです。

二度目の司法試験で合格 弁護士として始まったばかり

大学を卒業後、熊本大学大学院法曹養成研究科(ロースクール)に進学しました。そこで、学部時代勉強していなかった分を勉強しました。その後、二度目の司法試験に合格し、約1年間の司法修習を経て、現在弁護士として働いています。まだ、弁護士として働き始めたばかりなので分からないことだらけ。日々勉強だと思っています。

薬学部 | 製薬会社で創薬研究。薬学部で 培った姿勢と情熱が今も自分の支え



長井 一史
Kazufumi NAGAI

小野薬品工業株式会社
(アメリカ駐在)

薬学部薬科学科 平成13年度卒
大学院薬学研究科
博士前期課程 薬科学専攻
平成15年度修了
大学院薬学教育部 博士後期課程
分子機能薬学専攻
平成18年度修了

昭和54年生まれ。熊本県熊本市出身。熊本県立済々黶高等学校卒業。渡米してからは旅行と国立公園巡りにはまっています。

熊大のココがイイ！

人！個性的で魅力的な先生や学生が多いと思います。

薬学部卒の叔母の影響で 薬を通して人の役に立つ仕事を目指す

高校生の頃は漠然と医療に携わる仕事がしたいと考えていました。薬学部を選ぶきっかけとなったのは、同じ熊本大学薬学部卒の叔母の存在が大きかったです。叔母から薬学部や製薬会社の話を聞き、薬剤師や研究者などの、薬を通して多くの人の役に立つ仕事ができるところに魅力を感じました。今では同じ業界で働いているのが不思議な感じです。

研究室所属後、恩師や仲間のおかげで 研究のおもしろさを知った

学部3年生までは部活とバイトと遊びに明け暮れていました。仲間と一緒にくだらないこともしましたが、今となってはいい思い出です。研究室配属後は生活が一転、早朝から深夜までゼミや研究に忙しい毎日でした。恩師や研究室の仲間のおかげで研究の面白さに触れることができました。「よく学びよく遊べ」を実践できた学生生活だったと思います。

最先端の研究者とともに 薬が効果を示すメカニズムを解明

大学院修了後から現在まで小野薬品工業株式会社で研究員として創薬に携わっています。3年前から米国に駐在し、最先端の研究者と共に、薬がどのようにして効果を示すのか、そのメカニズムを解明する仕事をしています。熊大で培った研究に対する姿勢と情熱が今でも私を支えています。

工学部 | 多岐に渡る仕事がある消防の仕事 感謝の言葉にやりがいと喜び



角 昌俊
Masatoshi SUMI

大牟田市消防本部(福岡県)

工学部数理工学科
平成24年度卒

平成2年生まれ。福岡県大牟田市出身。福岡県立三池高校卒業後、熊本大学工学部数理工学科へ。幼い頃から剣道をしており、今でも時々熊本大学剣道部の練習に参加しています。

熊大のココがイイ！

自分のやりたい事、好きな事を学ぶことができる環境があるところ。

中学、高校では数学が大好き 教師を目指すも、消防士の道へ

中学生、高校生の頃から数学が好きで、数学の教師になるのが夢でした。高校の担任の先生の授業はとても分かりやすく、生徒に熱心に指導する姿には憧れを抱きました。また、進路相談の時には、親身になりアドバイスしていただきました。私もこのような教師になりたいと思い、熊本大学に進学しましたが、消防士になりました(笑)。

先輩や後輩とも仲がいい 1学年たった10人の数理工学科

数理工学科は学年に10人と人数の少ない学科のため、同級生だけでなく先輩や後輩との距離が近く、楽しい学生生活を送ることができました。教授方も寛大で、優しい方ばかりでした。部活動では剣道部に所属し、平日は毎日練習に励んでいました。全国大会にも出場でき、非常に充実した大学生活でした。

人の命にかかわる消防の業務 毎日、厳しい訓練を重ねて

消防は、消火・救助・救急・予防といった分野があり、奥が深い仕事です。消防士は、火災等の災害時に対応し、人命救助ができるよう、日々厳しい訓練をしています。市民の方から感謝の言葉をもらうと、とても嬉しくやりがいを感じます。熊本の震災時には、緊急消防援助隊として出動。少しでも復興の力になれたらという思いで活動しました。

卒業生 ジャーナル GRADUATES' JOURNAL

本学の卒業生たちの今に迫る「卒業生ジャーナル」。

熊本県内はもとより、国内外で活躍している先輩たちの様子を、これまでの歩みや苦勞、そして喜び、楽しみなどを通じてご紹介します。

教育学部 | 子どものころから生き物が大好き 知識と経験をフル活用し教壇に立つ毎日



免田 隆大
Takahiro MENDA

熊本県立第二高等学校
教諭

教育学部中学校教員養成課程
理科専攻
平成21年度卒

昭和61年生まれ。熊本県合志市出身。熊本県立済々黶高等学校を卒業し熊本大学教育学部に入社。生物学(動物学)を専攻し、現在は生物教諭として勤務。趣味は全国の動物園・水族館めぐり。

熊大のココがイイ！

友人はもちろん、研究室の教授など、自分の人生を変える出会いがある。

小さい頃から、研究者、飼育員、 そして先生も夢見ていた

幼少期から生物そのものが好きで、研究者や水族館・動物園の飼育員など、とにかく生物に関係する仕事を夢見ていました。また、さらに両親がどちらも教員であったことや、生物という科目を教えることに魅力を感じていたため、高校の生物教諭も夢として候補に挙がっていました。

行動範囲や使える時間が増え 大学時代はいろんなことに挑戦

行動範囲や使える時間が増えたことで、いろいろなことに挑戦。教育系サークルにも参加し、交友関係を広げたり見聞を深めたりすることができました。また、3年生で研究室配属されてからは、自分の特性を活かした研究(動物分類学)に取り組むことができ、充実した研究生生活を送ることができました。

博物館施設に勤務後、教職へ その経験が教育活動に活きている

卒業後は教授の紹介で県の博物館施設に勤め、その後非常勤講師として教職に就き、採用試験に合格して現在に至ります。現在は、教諭として多忙な毎日。大学時代や、博物館施設に勤めた時に得た知識や経験が、日々の授業やSSH(スーパーサイエンスハイスクール)の課題研究など、教育活動のいたるところで活かされていると感じています。



第13回先端科学技術分野学生国際会議 (The 13th ICAST 2018 Manila)を開催しました



ICAST2018参加者集合写真

11月28日(水)・29日(木)に、大学院自然科学教育部主催「第13回先端科学技術分野学生国際会議」(ICAST: International Student Conference on Advanced Science and Technology) をデ・ラ・サール大学(フィリピン)で開催しました。

ICASTは学生により運営される国際会議で、英語による研究発表や討論により学生の実践力及び英語運用能力を強化し、海外からの学生との交流により国際感覚を養うことを目的としています。平成20年より海外交流協定校での開催も含め毎年開催され、第13回目はデ・ラ・サール大学(フィリピン)での開催となりました。今回は、熊本大学からの参加者60名に加え、熊本県内の高校生2名、海外交流協定校(中国、インドネシア、フィリピン)から19名の学生が参加。口頭発表55件、ポスター発表26件を英語で行いました。また、ICAST学生運営委員会を組織し、オープニングセッションを含む各セッションの司会進行等が学生により執り行われ、有意義な国際会議となりました。30日(金)に実施したフィールドトリップでは Corregidor Islandを見学し、交流を深めました。



熊本大学の教員がサントリー熊本地下水みらいプロジェクト公開シンポジウム「巨大地震が熊本の地下水環境に与えた影響の科学的解明」で報告します

地下水都市熊本において2016年に発生した熊本地震に伴う地下水への影響の実態把握とその要因について、熊本大学などによる研究グループによる活動成果を報告します。

- 【開催日時・場所】
2019年4月13日(土)
13:30 ~ 16:35
- 【会場】 熊本県民交流館 パレアホール
- 【参加対象者】 どなたでも
- 【申込方法】 「代表者氏名」「参加人数」を明記の上、メール (chikasumirai@adroom.co.jp) または FAX 096-367-3439 にてお申込み下さい。
- 【参加費】
無料
- 【問い合わせ先】
地下水みらい・公開シンポジウム事務局
TEL:080-3182-2214
- 【URL】
http://accafe.jp/kumamoto_crest



駐福岡タイ王国総領事が熊本大学を表敬訪問しました

2月8日(金)、在福岡タイ王国総領事館よりアツタカーン・ウォンチャナマース総領事は3名の訪問団が原田信志学長、安東由喜雄大学院生命科学部研究部長をそれぞれ表敬訪問しました。

在福岡タイ王国総領事館は大阪に次ぐ総領事館として平成30年10月に開設され、現在九州・沖縄地方と中国地方の13県を管轄しています。

原田学長、高島和希副学長への表敬訪問では、タイ王国内の交流協定校との交流実績や今後の交流についての会談があり、次いで本学在籍のタイ人留学生との懇談を行いました。

また、訪問団は同日、安東由喜雄大学院生命科学部研究部長を表敬訪問し、エイズ学研究センター岡田誠治教授よりタイ王国と大学院医学教育部、医学部との交流実績について説明が行われました。その後、本学在籍のタイ人留学生9名を交え、留学経験等について意見を交わしました。

黒髪及び本荘地区でキャンパスツアーも実施し、今回の表敬訪問は本学について理解を深めて頂く良い機会となりました。



チェンマイ大学医学部(タイ)とダブルディグリー協定を締結



チェンマイ大学医学部と熊本大学医学教育部の博士課程でダブルディグリー協定に関する合意がなされ、1月14日(月)にチェンマイ大学で調印式が執り行われました。

熊本大学からは、安東由喜雄医学教育部長、富澤一仁医学教育部教育委員長、

宋文杰国際担当学長特別補佐、岡田誠治エイズ学研究センター教授が参加しました。調印式の後、岡田教授による熊本大学医学教育部の紹介があり、医学部の研究室の視察が行われ、今後に向けての相互理解と交流が深められました。チェンマイ大学は、タイの大学ランキング3位の大学で、タイに9つある National Research Universities の1つであり、タイ北部の研究・教育をリードする総合大学です。医学部は1959年に設立されタイで3番目に古い歴史を持ち、今年で60周年を迎えます。熊本大学とは平成30年に大学間学術・学生交流協定を締結後、活発な学生・研究者交流が行われています。



教育学部4年の古川大晃さんが「熊本城マラソン2019」で優勝し2連覇!

2月17日(日)に開催された「熊本城マラソン2019」で、教育学部4年の古川大晃(ふるかわ ひろあき)さんが、「歴史めぐりフルマラソン(男子)」において優勝し、2連覇を果たしました。

2月28日(木)には原田学長に優勝を報告しました。原田学長は「優勝おめでとう! 目標としていた2連覇の達成は素晴らしいことです。これからもがんばってください」と、労をねぎらいました。

古川さんは教育学部で単独走と追尾走の違いについて研究しています。「とにかく今回は優勝にこだわり、前半は追尾走を心がけ余力を残し、最後に思い通りスピードをあげることができました」と話す古川さん。自己記録更新のため、熊本城マラソンの後もトレーニングを続けているそうです。



提供: 熊本城マラソン事務局



医学部保健学科看護学専攻で、卒業生と在学生との情報交換会が開催されました

2月8日(金)に、医学部保健学科で、卒業生と在学生の情報交換会が開催されました。熊本大学医学部附属病院に就職した看護師や、自治体で働く保健師など、6名の卒業生が参加し、2年生・3年生の看護学専攻の学生と情報交換をしました。学生は「今の現場を選んだ理由」や「職場を決めるときの決め手」などを質問。自分の体験を交えた先輩の答えに聞き入っていました。実習ではわからない現場の様子がわかる情報交換会に、学生からは「県と市の保健師の仕事の違いがわかった」「実際に仕事をするイメージがわかった」という意見が聞かれました。



水中写真家の中村卓哉さんによる講演会「海からのメッセージ」を開催しました

体育会ダイビング部が2月17日(日)に、水中写真家中村卓哉さんをお招きして講演会「海からのメッセージ」を開催しました。当日は、熊本大学と熊本県立大学ダイビング部の部員や一般参加者など、約30人が参加しました。世界各地で潜ったダイビングの経験談や、辺野古の海と森のつながりについて講演いただいたほか、学生へのメッセージもお話しいただき、部員にとってはいつも潜っている海について考える良い機会になりました。また、水中写真の器材選びや撮影のコツなどを中村さんの写真とともに説明いただき、部員の撮影技術向上にもつながったようです。



講演会での記念撮影



ダイビング部春合宿、沖縄・西表島にて(坂田礼司前監督撮影)



環境省プロジェクト「よかエコバス号」の実証試験報告会を行いました



実証試験用バス「よかエコバス号」

熊本大学を中心とした産学官共同で開発を進めている、電気自動車(EV)バスの熊本市と益城町での1年間の実証試験が終了し、2月8日(金)に実証試験報告会を行いました。二酸化炭素削減を目指す環境省の委託事業として、松田俊郎准教授(大学院先端科学研究部)が技術開発を統括し、株式会社イズミ車体製作所などが共同開発者として参加し、乗用車のEV技術を活用した低価格EVバスを実現させました。実証試験の結果、路線バスとしての実用性が

十分にあることが確認できました。9月からは乗客が多く渋滞も激しい横浜市での実証試験を予定しています。停車と発車を頻りに繰り返す路線バスのEV化は、都市交通の排ガス問題の解決に繋がる技術として期待されています。



(左から) 宇佐川毅大学院先端科学研究部部長、松本泰道理事(研究・社会連携担当) 松田俊郎准教授



実証試験報告会の様子

熊本大学基金へのご協力に感謝し、心より御礼申し上げます。

№45（平成30年11月1日～平成31年1月31日）

卒業生の皆様、在学生の保護者の皆様、法人・団体等の皆様、本学の退職者及び教職員の皆様から、これまでに約14億0460万円（平成31年1月31日現在）のご寄附をいただき、研究・教育に資する事業に取り組みさせていただきました。また、熊本地震復興事業基金へお寄せいただきました寄附金は、熊本大学の復興に向けて、被害学生へ対する学修支援や被災しました建物の修繕費、設備・機器の更新・修理費のために、大切に活用させていただきます。皆様のご協力に厚く御礼申し上げます。

今号では、平成30年11月1日から平成31年1月31日までの間に入金を確認させていただきました個人105名、13法人・団体等の寄附者すべての皆様へ感謝の意を込め、ご芳名を掲載させていただきます。公開を希望されない寄附者の皆様につきましては、掲載しておりません。

また、万一お名前に記載漏れがある場合は、誠に恐縮ではございますが、基金事務局（電話：096-342-2029）までご連絡ください。皆様の更なるご支援とご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

1. お名前・寄付金額の掲載

（寄附金額別、五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。） ※（ ）内の数字は、累計寄附金額（万円）です。

<熊本大学基金>

【357万円】	熊本大学医学部医学科後援会（731）
【100万円】	立川 康夫（112） 杏龍会（250）
【50万円】	山西 嘉晴（55） 堤化学株式会社（660）
【10万円】	岡島 寛（14） 中国 克久（31） 長谷 義隆（60）
【5万円以下】	江口 城生（3） 岡田 洋一（23.5） 瀬川 義明（3） 村上 乃武子（2） 村田 富子（1） 本島 昭男（21） 熊本大学薬学部同窓会（4.3）

<熊本地震復興事業基金>

【7.1万円】	熊本大学関西連合同窓会（32.9）
【5万円以下】	熊本大学関西武夫原会（65.8）

2. お名前のみ掲載

（五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。） ※[]内の数字は、累計寄附回数（回目）です。

<熊本大学基金>

秋山 仁志 [6]	池田 智子	泉水 仁 [6]	入江 緑	岩崎 政孝 [2]	植田 光憲 [3]	大塚 祥史 [2]	川崎 雅之
河野 浩介 [3]	川野 尚	河村 久幸 [2]	菊池 健 [32]	木下 学	久保田 敏昭 [6]	隈部 淳一 [7]	児倉 静二 [5]
西郷 正志 [4]	佐藤 千栄子 [5]	重光 克俊	下中村 武	白石 雅資	瀬下 博志	田川 健一	田中 美紗紀 [2]
玉城 利昭 [2]	出口 俊雄 [2]	中津 健之	中村 滋郎	中村 泰博	西村 拓真	西村 隆佑	原 素子 [4]
春山 康久 [3]	藤井 文都子	堀江 英親 [5]	松岡 義雄 [2]	三角 恭須子 [2]	養田 真幸 [16]	向山 政志 [2]	山尾 敏孝 [6]
山田 由紀子	吉岡 秀記	米井 勝太					
学校法人駿河台学園駿台予備学校福岡校	コミュニケーションエナジー株式会社						

<熊本地震復興事業基金>

宮本 保 [15]

3. お名前・寄附金額の掲載を希望されなかった寄附者の皆様

個人49名、5法人・団体等

REPORT 第6回熊本大学関西連合同窓会を開催しました

12月1日（土）、第6回熊本大学関西連合同窓会（峯健二会長）を太閤園（大阪市）において開催しました。今回は、関西地区の同窓生など約180名の参加がありました。

当日は、前半に総会・講演会、後半に交流会を行い、総会・講演会では、峯会長、二塚信熊本大学同窓会連合会会長による挨拶の後、来賓紹介、平成29、30年度の卒業生表彰受賞者紹介、役員等紹介を行いました。

講演会では、原田信志学長から「熊本大学の復興とその後」と題した基調講演、安高啓明大学院人文社会科学部准教授から「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」と題した特別講演が行われました。

交流会では、瀬崎徳久東京連合同窓会会長、安田宏正九州連合

同窓会会長及び手島伸介熊本県大阪事務所長から祝辞が述べられた後、桑野幸徳関西連合同窓会名誉会長の発声で乾杯が行われ、参加者は賑やかに世代や学部を超えた交流を楽しみました。

会の終盤では、現役学生である中村あゆみ応援団団長と団員による「巻頭言」及び「五高寮歌」が披露され、閉会に際しては、児倉静二関西連合同窓会副会長から挨拶があり謝意が述べられ、盛況のうちには終了となりました。



INFO 熊本大学の循環器内科・心臓血管外科の医師が第12回熊本循環器市民公開講座で講演します

「あなたの大切なハートを救う！-最先端の救急治療と予防のコツ-」と題し、第12回熊本循環器市民公開講座を開催します。熊本大学の循環器内科・心臓血管外科の医師が最先端の医療に関して講演します。皆様のご参加お待ちしております。

【開催日時・場所】2019年6月2日（日）熊本県立劇場 演劇ホール
【参加対象者】どなたでも【参加費】無料

【問い合わせ先】RKK 熊本循環器市民公開講座
【申込方法】ハガキに、郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号、参加人数、「熊本循環器市民公開講座」と明記の上、〒860-8611 熊本市中央区山崎30「熊本循環器市民公開講座」係へ。または、FAX：096-325-0582、RKK ホームページからも申込み可能です。※応募多数の場合は、抽選を行い、当選者には後日、聴講券を送付。【URL】 http://rkk.jp

REPORT 平成30年度の感謝状贈呈・学生表彰を行いました

平成30年度の課外活動指導者に対する感謝状贈呈および学生表彰を行いました。平成14年度から続くこの表彰制度では、学術研究や課外活動において優秀な成績を修めた、または顕著な活動が認められ

た学生や学生団体を表彰しています。また、課外活動指導者に対する感謝状の贈呈もあわせて行っています。平成30年度は課外活動指導者1名に感謝状を、5団体および個人10名に表彰状を授与しました。

課外活動指導者に対する感謝状贈呈者			
サークル名	指導者名	指導期間	顧問教員
硬式野球部	山口 俊介 氏	7年	大学院人文社会科学部 法学系 教授 大日方 信春

学生表彰者（学業成績優秀者除く）

団体名	大会等名	成績	
ダイビング部	第25回全日本スポーツダイビング室内選手権大会	大学対抗400mフリップバーリレー男女1位 主将・副将リレー 1位 男子400mリレー 1位 女子400mリレー 1位 男子400mメドレーリレー 1位 女子400mメドレーリレー 1位 総合優勝	
	関東学生潜水連盟第49回フリップバー競技会		
	柔道部	第14回KOB E 自他共栄CUP学生柔道大会	男子5人制 準優勝
	テコンドー部	第16回全九州学生テコンドー選手権大会	熊本大学Cチーム 優勝
	盲学校用教材開発普及サークルSoleil（ソレイユ）	平成30年度 学生自主企画支援事業「きらめきユースプロジェクト」事業名：外部機関と連携した盲学校用支援器具の開発と製作・寄贈による社会貢献	最優秀

団体名	表彰名	表彰者
Orange Project	平成30年度ソロプチミスト日本財団 学生ボランティア賞受賞	公益財団法人 ソロプチミスト日本財団

個人

サークル名	氏名	所属	学年	大会等名	成績
ダイビング部	相原 好花	理学部	3年	第25回全日本スポーツダイビング室内選手権大会	400mフリップバー女子 2位
				関東学生潜水連盟第49回フリップバー競技会	潜水女子200m 1位 女子50m 1位
ダイビング部	池上 奈穂	工学部	2年	関東学生潜水連盟第49回フリップバー競技会	女子400m 1位
ダイビング部	佐藤 翔太	工学部	2年	第25回全日本スポーツダイビング室内選手権大会	100mフリップバー男子年齢別 3位
				関東学生潜水連盟第49回フリップバー競技会	男子50m 1位
ダイビング部	奥 利樹	工学部	1年	第25回全日本スポーツダイビング室内選手権大会	400mフリップバー男子年齢別 3位
				関東学生潜水連盟第49回フリップバー競技会	男子400m 1位 新人男子100m 1位
陸上競技部	倉原 菜摘	教育学部	3年	第102回日本陸上競技選手権大会	オープン女子50km競歩 3位
陸上競技部	野田 良生	自然科学教育部	1年	第88回九州学生陸上競技対校選手権大会	男子3000mSC 1位
陸上競技部	古川 大晃	教育学部	4年	熊本城マラソン2018	歴史めぐりフルマラソン 1位
				第36回九州学生駅伝対校選手権大会	第4区 区間賞 男子5000m 1位
				第46回九州学生陸上競技選手権大会	男子10000m 1位
				第68回九州地区大学体育大会	男子1500m 1位 男子5000m 1位
テコンドー部	岩本 朝希	理学部	4年	第88回九州学生陸上競技対校選手権大会	男子5000m 1位
				第16回全九州学生テコンドー選手権大会	女子+49kg級 優勝
テコンドー部	金子 昌大朗	法学部	3年	第16回全九州学生テコンドー選手権大会	男子+58kg級 優勝
				2018駐福岡大韓民国総領事杯国際オープンテコンドー選手権大会	一般男子-68kg級の部 優勝
テコンドー部	藤澤 礼至	工学部	3年	第11回かささぎ杯オープンテコンドー選手権大会	一般男子-68kg級 優勝
				2018駐福岡大韓民国総領事杯国際オープンテコンドー選手権大会	一般男子-58kg級上級の部 優勝 最優秀選手賞
テコンドー部				第11回かささぎ杯オープンテコンドー選手権大会	一般男子-58kg級 優勝



五高外国人教師 (五高記念館所蔵)

旧制高等学校では、英語やドイツ語を中心とした外国語教育が重要な位置を占めていた。フランス語やラテン語が講じられた時期もある。

五高では、1888(明治21)年5月に着任したエバ・克蘭ミーから、1945(昭和20)年の敗戦後離日したゲオルグ・ドルまで30名の外国人教師が教鞭を執った。中にはラテン語を含めて3カ国語を講じたヘンリー・ファーデルや『大日本書史』を完成させたN・フリッツ・フォン・ヴェンクシュテルン、高等学校における最初的女性ドイツ語教師となったゾフィー・ビュットナー、九州学院(熊本市中央区)を創設したC・L・ブラウン、『百人一首』や『土佐日記』を英訳したウィリアム・ポーターなど多彩であった。

その誰もが、^{せきがくたいと}碩学泰斗の人であり、優れた教育者であった。何よりも日本に対する強い関心と理解、そして日本人に対する親愛の気持ちを持った人々であり、欧米諸国における日本研究や日本に対する知識の啓発に大きな貢献を果たしている。

文 藤本秀子 (五高記念館)

写真左: 英語教師ジェームズ・R・ベアード(在籍1937(昭和12)年~1939(昭和14)年)
写真右: ドイツ語教師ヨゼフ・プラウトと五高ドイツ語教師たちの送別写真
(在籍1909(明治42)年~1912(明治45)年)

※五高記念館(国指定重要文化財)は、熊本地震による被害のため長期休館中です。